

海外生活を支える活動のご紹介(3)

ジャムズネット東京— NPO法人として転機を迎えて —

JOMFサイトお勧めリンク集の【項目別お勧めリンク集】邦人医療支援ネットワークにジャムズネット、ジャムズネット東京の2件が登録されています。いずれも海外に在住する日本人のためのサポートを行うボランティア組織のネットワークです。(詳細は下記インタビューでどうぞ。)

前者はニューヨークで2006年1月に発足、ジャムズネット東京は2012年2月に特定非営利活動法人として認証されました。その記念講演会が7月29日に開催され、パネルディスカッションには当基金から倉林専務理事が参加いたしました。会場で代表の仲本光一先生に活動についてお話を伺ってきましたのでここにご紹介させていただきます。

◇ジャムズネット東京

<http://jamsnettokyo.org/>

◇ジャムズネット (Japanese Medical Support Network : 米国)

<http://jamsnet.org/>

JOMF: このたびは特定非営利活動法人認証おめでとうございます。記念講演会も無事に済んで一息ついているところかと思いますが、少しだけインタビューにご協力お願いします。今日は100名以上も参加者が集まり、盛会で何よりです。

興味深い講演をありがとうございました。12日も横浜医療塾 市民公開講座の講演を伺いました。先生とは1996年の「博士と助手」発行の頃からお付き合いをいただいておりますが、両方のお話の中で重なっている時代があり、とても懐かしく感じられました。

“9.11 テロ”が一つのきっかけで、ニューヨークでジャムズネットが設立、ジャムズネット東京へとつながるわけですがそのあたりのいきさつについて具体的に教えて下さい。



仲本先生: ありがとうございます。海外邦人医療基金の皆様とはジャカルタ勤務時代から「博士と助手」の

仲本先生による基調講演

ご紹介など、本当にお世話になっております。いつも暖かくご支援いただき感謝しております。また今回は貴重な御紙面をいただき、改めてお礼申し上げます。ジャムズネットの設立の経緯ということですが、少々長いお話になりますがお許しください。私が外務省医務官になって既に20年が経過しました。医務官の仕事というのは、海外の在外公館(大使館・総領事館)に勤務して、まずは館員・家族の健康管理を行うこと、2番目として各地域の医療事情・流行病の状況などを報告することがあります。そして、これは現地の事情に応じて、ということになります。在留邦人や旅行者の皆様からの相談にも対応しています。医務官は現地で医師としての資格を保有しておりませんので、あくまで保健相談という形ですが、過去・現在にわたり多くの相談を受けています。また近年は、海外で発生する事故・災害やテロの際に、邦人援護業務の一環として邦人を医療面で支援する事例も増えてきました。



パネルディスカッション「ジャムズネット東京への期待＝医療情報の提供について」

医療相談室を設置していましたので、医務官が身体疾患で邦人から相談を受ける例は少ない状況でした。邦人数1万人で日本人会の活動も活発であり、その中でも母子支援のための自助団体であるマザーズクラブが情報誌の発行・日本人医師による小児検診の実施などを行っていました。医務官はマザーズクラブへの支援を行っていましたが、その中で母子のメンタルヘルス相談事例が増加し、臨床心理士などが中心となり、自助団体“ジャカルタカウンセリング”が設立されました。私は当初から参加し、邦人へのメンタルヘル支援を行っています。

その後は一端帰国し、本省に3年間勤務しています。

この時期に、ハワイ沖えひめ丸海難事故、米国同時多発テロ、北朝鮮拉致被害者帰国などの事例が発生し、医務官が邦人支援のために積極的に参加する前例となりました。次任地、



パネラーとして参加の JOMF 倉林専務 (右)

感染症の宝庫インドでは医療ツーリズムが台頭していましたが、医務官の仕事としては、麻薬に溺れるバックパッカー支援などで、領事と共に現場対応しました。次任地は、米国のニューヨーク総領事館でした。ニューヨーク周辺には在留邦人が6万人以上居住し、日系クリニックや日本人カウンセラーが多数開業しており、医務官が邦人からの相談を直接受けるケースはほとんどありませんでした。しかし医療先進国の米国においても、邦人は言葉や文化の問題、システムの違い、医療費の高さの問題などで苦労されており、こうした問題を支援するために

私の最初の任地ミャンマーは、邦人数100人余りでした。医療レベルは最悪でして、唯一の日本人医師である医務官は邦人にとって“頼りにせざるを得ない”存在であり、日常的に外科・内科・小児科・産婦人科など多様な相談があり、初期対応を行っていました。当時はネットもなく医療情報も得にくい状況でしたので、日本人会会報誌で「博士と助手」を開始したのもこの時でした。邦人の皆様のおかげで一人の医師として成長させていただいた、と思っています。

次の任地インドネシアのジャカルタは経済発展が著しく、日本人の使用に耐える設備の良い病院があり、また海外邦人医療基金さんが日本人



パネルディスカッション座長：ジャムズネット東京の濱田理事(左)、福永理事(右)

9.11 以前は“表面上”少なかったように見えました。“国際人としてイケイケ”の営業マンが邦人同士まとまる、あるいは助け合う必要性を“表面上”は感じていませんでした。(母子、留学生、結婚して移住した邦人女性などは、以前より弱者としての悩みを多く抱えていました。)しかし9.11という国家テロ発生後、当初、テレビ・新聞などの報道で「真珠湾攻撃の再来」などという見出しが踊り、米国がテロへの報復に一丸となる姿を見て、邦人は米国の“日本人を含む他民族への偏見・差別、違和感”を微妙に感じました。(日米カウンセリングセンターの松木史先生談。)また、6万人居住していても人種別では21番目であるため、有事において日本語による情報が米国側から提供されることはなく、情報格差を実感し、“邦人は緊急事態において災害弱者・マイノリティー”であることを強く意識させられました。また在留邦人の高齢化も問題になっており、日本語による情報・サービスに対する要求が増加していました。こうした背景の中、米国日本人医師会やNY日系人会を中心とする多数の自助団体が“自国民は自国民同士で助け合うことが必要である”との考えのもと、邦人支援活動をさらに展開するようになったのですが、その時点では団体同士横の繋がりが少ない状況でした。

私が赴任した2005年に当時の米国日本人医師会会長である本間俊一教授(コロンビア大学循環器)から提案をいただき、総領事館が側面支援・定期的な会議の場を提供する形で、多数存在する自助団体の連携が始まりました。それが2006年1月に設立されたジャムズネット(邦人医療支援ネットワーク)です。私はその設立を総領事館の側から支援し、会議の進行を勤めました。総領事館側としても、邦人の多いNYでは日常業務において、さらに有事の際には特に地元の邦人専門家の支援が必要であることを9.11を契機として実感したという背景がありました。その後ジャムズネットは、共同でさまざまな啓発活動を行うようになり、セントラルパークで開催されたお祭り(ジャパニデイ)の中でブースを出して無料の健康チェックを行ったり、日系人会と共同でシニアウィーク、ヘルスウィークなどの医療イベントを開催したりしています。この6年間で、既に1万5000人あまりにアウトリーチしており、NY邦人にとっては不可欠な存在になりつつあると思います。2008年に私はNYを離れたわけですが、その後、帰国者を中心としたメンバーで2009年1月にジャムズネット東京が設立され、ホームページ上での医療・保健・福祉・教育・生活情報の提供、メールを通じた個別相談を開始しました。患者団体主催の乳がんシンポジウムの協力や、日米の学生交流も始めたところです。NYのジャムズネットと連携しながら、NYや米国以外の地域の邦人の支援、「国境を跨ぐ活動をする日本人への支援」を主たる目的としています。2011年3月に発生した東日本大震災以後は、NYを中心とした邦人の“思いを繋ぐ”ため、被災地支援活動も行っています。



正確には112名の参加者でした

JOMF：運営に関わっているメンバーの構成について教えてください。

仲本先生：いずれも海外生活経験のある方々で、それぞれのお仕事が忙しい中、全くのボランティアで参加いただいています。(編集部注：後日リストをいただきましたので下記に掲載します。)

- ・理事長 仲本 光一：外務省医務官
- ・理事 井上 孝代：明治学院大学心理学部心理学科教授・副学長
- ・理事 亀山 静子：スクールサイコロジスト、NY日本人教育審議会教育相談室相談員
- ・理事 重村 淳：防衛医科大学校 精神科学講座 講師

- ・理事 鈴木 満 : 外務省メンタルヘルス対策上席専門官、
岩手医科大学神経精神科学講座客員准教授
- ・理事 武井 康悦 : 東京医科大学病院 循環器内科
- ・理事 濱田 篤郎 : 東京医科大学病院 渡航者医療センター教授
- ・理事 福永佳津子 : 海外生活カウンセラー、海外邦人安全協会理事、
ロングステイ財団政策審議委員
- ・理事 本間 俊一 : コロンビア大学循環器内科主任兼内科教授
- ・理事 柳澤 貴裕 : マウントサイナイ医科大学准教授、米国日本人医師会副会長
- ・監事 古閑比斗志 : 厚生労働省 関西空港検疫所企画調整官
- ・監事 和田 仁孝 : 早稲田大学大学院法務研究科教授
- ・事務局 池田みどり／進藤由美／萩原 雄樹／長谷川真人

JOMF : 何うと、ハイレベルなスペシャリスト集団という印象ですが、貢献できるスキルを何も持たない一般人でも賛同して何かお手伝いができるのでしょうか。

仲本先生 : ジャムズネット東京の特徴は、プロフェッショナルな方のみならず、患者団体さんやボランティアさんも多数参加されていることにあります。常々感じていることですが、とかく専門家集団は一般からの意識と乖離して内向きな活動に終始しがちです。我々は、一般目線・弱者目線からの指摘・要望を重視したいと考えており、こうした患者さん側、サービスを受ける側の方々にも参加いただき、情報提供する際やイベントを行う際にアドバイスいただくなどの協力をしてもらっています。リスクコミュニケーションにおいて重要な点は、一方的な情報提供ではなく相互交流だと思っています。我々の趣旨に賛同いただける方、自分も何かお手伝いしたいという方には是非参加いただきたいと思っています。実は、我々は医療的なことには詳しくても事務的なこと、団体を継続していくためのビジネス的な視点に欠けている面があり、その点特にお手伝いいただければありがたいと思います。

JOMF : 今までに受けた相談で多いのはどのようなジャンルでしょうか。

仲本先生 : 基調講演でもお話しましたが、医療相談としては多科にわたっています。内科・外科・整形外科・眼科・腫瘍科・耳鼻科・皮膚科・精神科・小児科・産婦人科等々です。また、障がいを持つお子さんを連れて赴任したいといった教育・福祉に関する質問も多くあります。また海外にいらっしゃる方で、帰国して日本の医師を受診したい、セカンドオピニオンを得たいがどこに相談したら良いか、というような質問も多くあります。他、帯同子女の教育問題、犯罪被害（性的犯罪含む）事例など、特に企業内で相談しづらいケースで外部団体である当方にご連絡が来ているケースもあります。

JOMF : これからのジャムズネット東京の活動予定を教えてください。

仲本先生 : ジャムズネット東京の現在の活動をまとめると以下の4点に集約されます。

1. 医療他プロの情報を一般の方に平易な形で繋ぐ。
2. 海外邦人・渡航者の悩みをプロに繋ぐ。
3. 世界の邦人支援団体同士を繋ぐ。
4. 海外邦人の日本への思いを繋ぐ。

ジャムズネット東京の強みは、豊富なリソースを有するNYのジャムズネットとの連携、さらに外務省領事局や外務省医務官ネットワークとの強い繋がりにあります。“国境を跨ぐ活動をされている日本人”に対し情報提供をし、相談を受けることを主目的としていますので、海外渡航者・帰国者のための講演会・イベントなどを毎年行いたいと思っています。また、最終的には世界中の邦人支援のためのネットワーク作りに貢献できればありがたいと思っています。被災地支援を行っていることもあり、定期的に東京、NY、被災地等を結

んでテレビ会議を行っているところですが、こうした会議が世界中を結んで出来たらすばらしいと思っています。

さらに、私は現在カナダに在住していますが、各国の医療を体験し、日本の医療のすばらしさを実感しています。もちろん多くの課題がある日本の医療ですが、アクセスの良さ・レベルの高さ・比較的安い価格、この日本の良さを残すために、限られた医療資源を大切にしていくために、医療側のみならず患者さん側の努力も必要だと考えています。“患者学”の教育、“患者力の向上”をテーマにしたイベント・啓発活動も日本の方を対象に行っていきたいと考えています。



講演会後の懇親会は NETWORKING＝「繋ぐ」で盛況でした

JOMF：最後にぜひお話しておきたいことがあればお聞かせ下さい。

仲本先生：今年2月にジャムズネット東京は特定非営利活動法人としての承認をいただきました。今後は我々自身の団体の継続性が問題になります。多くの志の高い方々に参加いただいておりますが、志だけでは長続きしないことも承知しています。前の方でもお話ししましたが、我々のウィークポイントはビジネスマインドだと思います。

是非、この面でのプロの方、事務処理能力の高い方等にご参加・お手伝いいただき、団体の継続性にご協力いただければ、たいへんありがたく思います。もちろん資金面での寄付も大歓迎しています。その他、趣旨に賛同され、ご協力いただける方があれば、いつでも歓迎しておりますので、当方までご連絡ください。お問い合わせ、参加の意思表示、寄付の受付など、全てのご連絡先は下記です。

ジャムズネット jamsnettokyoinfo@gmail.com

今日は、ありがとうございました。



当日関係者が着用していたお揃いのポロシャツはイベントの際に販売、売り上げは活動の補助にあてられるそうです。

(最後に)

東日本大震災でもメンバーの方々のご活躍はいろいろと伺っております。復興への課題は山積みで、まだまだ支援は続くと思いますが、皆さんお仕事をもちながら活動を継続され、頭が下がります。国内でそのような支援活動をしている方々の存在は、日本のことが心配でたまらない海外の日本人にとって安心感を与えてくれることと思います。

これからも皆様のご活躍を楽しみにしております。

本日はお忙しいところお話をありがとうございました。

2012年7月29日

By JOMF NEWSLETTER 編集部